

第63回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

最後のプレゼント

群馬県 桐生市立黒保根学園 二年生

関口 心歩

みなさんは、生命保険について考えたことがありますか。「生命保険」という言葉は聞いたことがあっても、どのような時にどう使われているかは、想像するのが難しいと思います。そこで、家族から生命保険について聞いたことをもとに、どのような時にどう使われているのか考えてみたいと思います。

一昨年の秋、私のおじいちゃんがすい臓ガンで亡くなりました。おじいちゃん、何度も入院を繰り返していました。入院時、治療代や薬代は公的医療保険により三割のみ自己負担で残りの七割は公的医療保険が負担してくれました。お部屋代と食事代は一部自己負担が必要でした。高額なので入院が長びけば、その分負担も大きくなります。しかし、ガン保険という生命保険に加入していたので負担は少なかったそうです。この保険は、入院した日数に比例して、契約した金額を後からもらえるようになっていて、負担を軽くすることができると保険でした。

次に、おじいちゃんが亡くなる前に死亡保険という保険に入っていました。この保険は葬儀費用や残されたおばあちゃんが生活に困らないようにとかけられた保険でした。この保険金はおじいちゃんがおばあちゃんに贈った最後のプレゼントなのではないかと思いました。

生命保険は、私たちが生きていくうえで非常に大切な保険だと思いました。生命保険がなければ、多額のお金が必要になった時、自分や家族が全て負担しなければいけません。生活が苦しくなって楽しい人生を送ることになるかもしれません。しかし、生命保険に入っていれば、生活に困る可能性は低くなります。

生命保険には色々な種類のものがあつたり複雑な内容になったりしているの、中学生の私にはまだ全て理解することは難しいですが今回のことをきっかけに、自分はどのような保険に入っていて、どのような時に保障してもらえるのか、親と一緒に改めて確認したいです。また、保険を使うことがないように自分自身の健康に気をつけたいです。